

令和2年度第2回「学ぶ土台づくり」研修会（入門編）

環境構成の基礎知識

参考：幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年3月）



主催 宮城県教育委員会

幼児の発達のかえ方

- 人は生まれながらにして、自然に成長していく力と同時に、周囲の**環境**に対して自分から能動的に働き掛けようとする力をもっている。
- 自然な心身の成長に伴い、人がこのように能動性を発揮して**環境**と関わり合う中で、生活に必要な能力や態度などを獲得していく過程を発達と考えることができる。



幼児の発達の捉え方

- ・ 幼児期には，幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら，生活の中で状況と関連付けて生活に必要な能力や態度などを身に付けていくことが重要である。



生活に必要な能力や態度などの獲得のためには，遊びを中心とした生活の中で，幼児自身が自らの生活と関連付けながら，好奇心を抱くこと，必要感をもつことが重要である。



発達を促すもの

ア 能動性の発揮

幼児の能動性が十分に発揮されるような対象や時間、場などが用意されることが必要である。

特に、そのような幼児の行動や心の動きを受け止め、認めたり、励ましたりする大人の存在が大切である。

幼児の心の安定

周囲の大人との信頼関係が築かれることによってつくり出される。



発達を促すもの

- イ 発達に応じた**環境**からの刺激
幼児は、**環境**との相互作用によって発達に必要な経験を積み重ねていく。



幼児期の発達・・・生活している**環境**の影響を大きく受ける。

自然**環境**に限らず、人も含めた幼児を取り巻く**環境**の全て



環境を通して行う教育の意義

幼児期

生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期

幼児期の教育

幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことを重視

幼児教育施設における教育

「環境を通して行う教育」が基本となる。



幼児の主体性と保育者の意図

環境を通して行う教育

幼児の主体性と保育者の意図がバランスよく絡み合っ成り立つもの

幼児教育施設の教育が目指しているもの

幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、
幼児が自ら周囲に働き掛けてその幼児なりに試行錯誤を繰り返し、自ら
発達に必要なものを獲得しようとするようになること



保育者主導の一方的な保育の展開ではなく、一人一人の幼児が保育者の
援助の下で主体性を発揮して活動を展開していくことができるような
幼児の立場に立った保育の展開をしていくことが必要



環境を通して行う教育の特質

- ✓ 幼児の主体性が何よりも大切にされなければならない。
- ✓ 幼児が自分から興味をもって、遊具や用具，素材についてふさわしい関わりができるように，遊具や用具，素材の種類，数量及び配置を考えることが必要である。
- ✓ **環境**との関わりを深め，幼児の学びを可能にするものが，保育者の幼児との関わりである。
- ✓ 保育者自身も**環境**の一部である。保育者の動きや態度は幼児の安心感の源である。保育者がモデルとして物的**環境**への関わりを示すことで，充実した**環境**との関わりが生まれてくる。



幼児の主体的な活動と環境の構成

幼児が主体的に活動できる環境を構成するために・・・

- ・ 幼児の周りには様々な事物、生き物、他者、自然事象・社会事象などがそれぞれの幼児にどのように受け止められ、いかなる意味をもつのかを保育者自身がよく理解する必要がある。



幼児を理解することにより可能

その時期の幼児の環境の
受け止め方や環境への
関わり方

興味・関心の
在り方や方向

一日の
生活の送り方

幼児一人一人にとって必要な経験を考え、

適切な環境を構成



幼児の主体的な活動と環境の構成

保育者も重要な環境の一つ

保育者等の存在

(身の置き方や行動, 言葉, 心情, 態度など)



幼児の行動や心情に大きな影響を与えている。



幼児の主体的な活動と**環境**の構成

環境の再構成

幼児なりに思いや願いをもち続け、関わっていくこと

幼児の興味や関心は次々と変化し、深まり、発展していく。

それに伴って**環境**条件も変わらざるを得ない。

環境が最初に構成されたまま固定されていれば、幼児の主体的な活動が十分に展開されなくなり、経験も豊かなものとはならない。



幼児の活動の流れや心の動きに即して、常に適切なものとなるように、**環境**を再構成していかなければならない。



環境を構成する視点

①発達の時期に即した環境

幼児の長期的な生活の視点に立ち、それぞれの発達の時期の幼児の環境への関わり方、環境の受け止め方を捉えて、どのようにしたらよいかを十分に考える。



環境を構成する視点

②興味や欲求に応じた環境

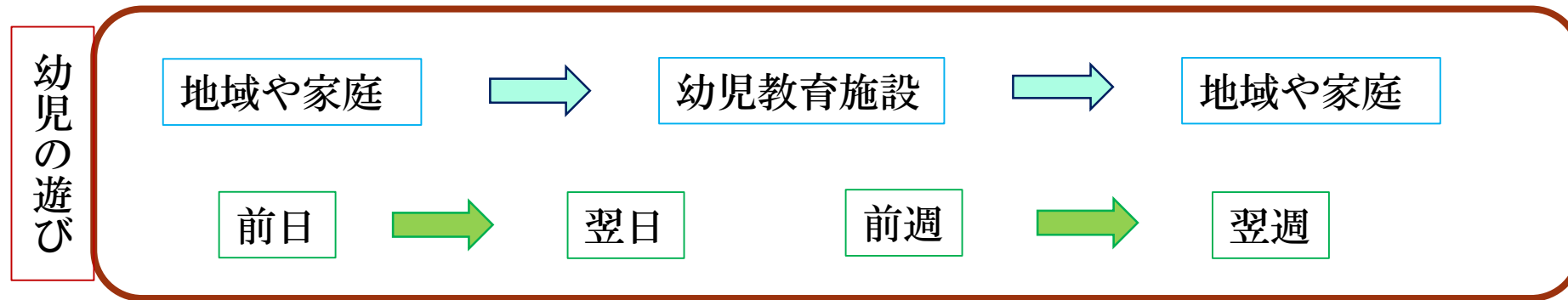
- 幼児がどんなことに興味をもち、どんなことをしたいのかを感じ取り、それを手掛かりとして環境の構成を考える。
- 幼児の表面的な興味だけにとらわれるのではなく、今どのような経験をすることが大切なのかを考え、保育者が幼児の中に育ててほしいと思うことや保育のねらいによって、環境を構成する。

自分の力で乗り越えられるような困難



環境を構成する視点

③生活の流れに応じた環境



自然な幼児教育施設の生活の流れをつくり出していく。

また

自然な生活の流れの中で幼児が様々な自然環境に触れることができるようにする。

さらに

意図性と偶発性 緊張と解放 動と静 室内と屋外 個と集団など

様々なものがバランスよく保たれた自然な生活の流れをつくり出し、偏った環境にならないように配慮していく。



保育の展開における保育者の役割

- ✓ 幼児の発達を見通し，具体的なねらいと内容を設定すること
- ✓ 幼児が発達に必要な経験が積み重ねられるような具体的な**環境**を考えること
- ✓ **環境**と関わって生み出された幼児の活動に沿って幼児の発達を理解すること
- ✓ 一人一人の幼児にとっての活動のもつ意味を捉え，発達に必要な経験を積み重ねていくことができるように援助をしていくこと



保育の展開における保育者の役割

環境と関わる保育者の姿勢

- 自ら**環境**に関わる保育者の姿は幼児のモデルとして重要な意味をもつ。
- 保育者が他の幼児に関わっている姿を見ることも、幼児にとっては大切な**環境**としての意味をもつ。

保育者は幼児にとって**人的環境**として重要な役割を果たしている。保育者自身がどのように生活し、**環境**とどのように関わっているかを常に振り返り、考えながらよりよい方向を目指していくことが大切

